

都市再生整備計画(第4回変更)

よしだ
吉田地区

にいがた つばめし
新潟県 燕市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	燕市	地区名	吉田地区	面積	590 ha
計画期間	平成17年度～平成21年度	交付期間	平成17年度～平成21年度				

目標

大目標:地域資源を活用したまちなか交流・定住空間の再生

目標1	郷土の歴史的資源を活用した交流空間整備によるまちなかの再生
目標2	自然環境を取り込んだ憩いの市街地空間の整備
目標3	安全・快適で魅力ある歩行者空間の整備

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

計画地区は燕市吉田地区における中心部であり、本町通りを中心とした市街地部である吉田地域とその隣接部の粟生津地域であり、燕市吉田地区の人口と各種施設が集積する居住と生活の場である。このうち中心市街地は西川の舟運により繁栄し、商業・業務などの機能が集積し、周辺住民の交流の場として栄えた結果、船着場、雁木、天満宮や香林堂(レンガ造の旧今井銀行)等の歴史的資源が多く、『街の顔』として重要な役割を担っている。また、周辺市街地では居住機能を中心として教育、福祉、保健機能等の町民の生活を支える機能が立地し、定住環境の整備が進められている。更に周辺市街地に連担する粟生津地域では長善館(儒教家鈴木文臺が創設した漢学塾)を地域資源とし、平成3年には吉田町史料館が開館し、長善館をしのぶ資料を中心に展示されている。
このように、計画地区には地域の魅力となりうる各種の資源が点在しているものの、それらが十分に活用されておらず、また安全で快適な生活を営む生活基盤(歩行者空間や公園等)の整備も遅れている状況にある。その結果、近年、市街地を中心に人口の停滞(DID内人口は平成2年より減少)、少子高齢化の進展(平成12年:年少人口16.6%、老年人口17.8%)、中心商業活動の停滞(町民の中心市街地への買い物行動:61.0%(昭和55年)⇒9.9%(平成13年))、及び交通環境の悪化等が生じていることから、地域資源を活用した総合的な生活環境の整備が求められている。

課題

計画地区において顕在化している問題(人口停滞、少子高齢化、商業活動の停滞、交通環境の悪化等)を解決するためには、地域資源を活用した総合的な生活環境の改善が必要であり、その際、『地域魅力の活用』及び『定住・交流基盤の整備』が解決すべき課題となる。具体的には、
①地域の生活文化に密着した地域資源である西川の船着場、香林堂、長善館等を再生した個性的なまちづくり
②町民の憩いの場であるとともに様々な交流活動となる都市公園の整備(1人当り都市公園面積現況:燕市吉田地区5.8㎡、新潟県8.5㎡)。
③安心して楽しく歩ける街なかの歩行者空間の整備(歩道や遊歩道がネットワークされていない)
等がまちづくり上の重要課題である。これらの重要課題を解決し、地域資源を活かした住む人と訪れる人に魅力あるまちづくりにより、安心して住み続けられ、更には楽しく訪れることのできる市街地環境の形成を目指す必要がある。
将来ビジョン(中長期)

【まちづくりの基本理念(旧吉田町)】

① 田園環境と連続性を持つ個性的な市街地環境の形成
② 人々の快適な活動を支援する都市機能の創出
③ 産業発展の可能性となる基盤形成

【まちづくりの基本方針】

旧吉田町都市計画マスタープラン(平成10年)では、市街地部である吉田地域において都市機能の集積を図る8つのゾーンを設定し、また、粟生津地域や米納津地域においても地域別構想を設定して、旧吉田町の発展の基盤となる都市構造の基本的な考え方としている。これらのゾーンではおのおのゾーンの有する都市機能や地域資源を活用して拠点的なまちづくりを進め、相乗効果を高めることが提案されている。特に中心市街地に位置する『歴史とふるさとのシンボルゾーン』、これに隣接した『社会福祉・文化ゾーン』及び『世代交流ゾーン』、更には『粟生津地域』は関連事業とあわせて短期的にまちづくりを推進すべきゾーンである。これら4つのゾーンで以下の整備方針のもと同時進行で拠点的なまちづくりを進めることによって、旧吉田町全体の魅力アップを図る。
① 歴史的資源(天満宮、香林堂、長善館等)のまちづくりへの活用
② 自然環境を取り込んだ憩いと癒しの市街地空間整備
③ 歩行者空間の充実による歩いて楽しいまちづくり
④ 地域特性に対応した高質な市街地空間整備

【まちづくりへの取り組み】

まちづくりに関する住民の活動としては、市街地の活性化に向けた取り組みとして平成14年に住民、商業者、商工会の代表により『吉田町商業集積グランドデザイン』が策定され、にぎわいを取り戻すためのまちづくりの提言がなされ、平成15年には『吉田町まちなかいきいき委員会』がまちなか商業マップを作成している。また、粟生津地域では地元有志により『長善館史蹟保存会』が結成され、保存会が中心になり長善館及び鈴木邸を伝えるべき書物を整備し、資料館に保管され一般に開放されている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
観光入り込み客数の減少の抑制	人/年	吉田地区(天満宮)を訪れる観光入り込み客数	地域資源(歴史資源・自然資源)を活用したまちなか交流環境の再生により、中心部を訪れる交流人口の減少の抑制を図る	73,000 人	平成16年度	26,250人	平成21年度
定住人口の減少の抑制	人	燕市吉田地区の夜間人口	近年、燕市吉田地区の人口が減少傾向にある中で、居住環境整備を進めることによって、夜間人口の減少の抑制を図る	25,477人	平成15年度	25,050人	平成21年度
公園利用者の増加	人/日/2公園	地区内に新設される公園(2箇所:吉田大保町ちびっこ広場、みなみ親水公園)の利用者数	住民の憩いの場である公園整備により、近隣住民により利用が促進される。	0人	平成15年度	240人	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1: 歴史的建築物等を活用した交流・参加・体験機能の整備 『粟生津地域』における歴史的資源である長善館及び旧鈴木邸を復元し、郷土の偉人を後世に伝えるとともに、郷土史研究の場だけでなく漢学塾としての創設を踏まえ、子供たちを対象とした宿泊体験学習や各種研修の場として利活用し、歴史文化に身近に触れることができ、学習・体験できるまちづくりを目指す。また、中心市街地(『歴史とふるさとのシンボルゾーン』)における歴史的資源である船着場、雁木、天満宮や香林堂等を活用、環境整備することにより、まちなかの魅力を高め、住民や来街者による賑わいを再生する。	・長善館及び旧鈴木邸整備事業(基幹事業/高次都市施設) ・旧鈴木邸移設(基幹事業/既存建築物活用事業) ・長善館及び旧鈴木邸整備事業(提案/地域創造支援事業) ・案内板整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設) ・長善館の保存と活用に関する調査(提案事業) ・高齢者福祉施設建設事業(関連事業、民間) ・既存建造物活用事業(関連事業、民間)
整備方針2: 自然環境(水辺)を活用した憩いの市街地空間整備 富永用水路を活用して親水公園を整備し、市街地環境の中に水辺空間を積極的に取り込む。 吉田南小学校移転予定地に隣接する富永用水路を活用した親水公園は、子供たちへの情操教育向上に寄与するとともに、人々の交流を促進する場とする。また、燕市地域防災計画の避難場所として指定するとともに、隣接地に建設する吉田南小学校の避難箇所として利用し防災機能の向上を図る。	・みなみ親水公園整備事業(基幹事業/公園) ・案内板整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設) ・新設公園計画住民懇談会(提案事業) ・浄水場排水池増設事業(関連事業、町) ・小学校建設事業(関連事業、町) ・高齢者福祉施設建設事業(関連事業、民間) ・土地区画整理事業(関連事業、民間)
整備方針3: 安全快適で魅力ある歩行者空間の整備 基幹事業となる本町通り(県道石瀬吉田線)や別事業で整備する都市計画道路堤第1号線をまちのシンボルロードとして位置づけ、安心して歩ける歩行者空間としてバリアフリーや自動車交通との折り合いを図る。 公民館・図書館や保健・医療施設が集積する地区に建設を予定している児童厚生施設に併設する公園や歩道は、既存の歩道とリンクし、市街地内の各ゾーンや拠点施設を結ぶネットワークを構築し、歩行者の回遊性を確保し、歩道の排水対策として調整池を設け、安全で快適に歩けるまちづくりを目指す。 また、本町通りに位置する天満宮への参道の石畳舗装等、地域特性を考慮した高質な歩行者空間の整備により、歩いて楽しいまちづくりを目指す。 浸水被害が起きている区域内の公園及び公共施設駐車場に調整池を設置し、雨水を貯留を行い急激な排水を防止し浸水被害を防止する。また流下能力を阻害している箇所の整備を行い浸水に対する防災機能の向上を図る。	・県道石瀬吉田線歩道整備事業(基幹事業/道路) ・天満宮参道の石畳整備事業(基幹事業/高質空間形成施設) ・市道306号線、301号線、吉田支線14号線歩道整備事業、市道30号線道路整備事業(基幹事業/道路) ・吉田大保町ちびっこ広場整備事業(基幹事業/公園) ・(都)諏訪線街路事業(基幹事業/道路) ・案内板整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設) ・排水対策事業(基幹事業/地域生活基盤施設) ・新設公園計画住民懇談会(提案事業) ・国道116号富永交差点改良事業(関連事業、国) ・国道116号法花堂自歩道事業(関連事業、国) ・児童厚生施設整備費補助事業(関連事業、町)
その他 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 当地区では、粟生津地域における『長善館史蹟保存会』や地元商店街、商工会・地域住民を中心とした『まちづくり協議会』(歴史とふるさとのシンボルゾーン)における関係者の協議に基づき、まちづくり交付金事業で整備された施設を利活用し、街の維持・管理活動、イベント等を継続的に実施する予定である。 ○街並み形成の誘導を図るための方策について 歴史的建築物の復元や参道整備等の周辺環境整備、特徴ある歩行者空間整備(歩道の石畳等)に合わせて、これたと調和した沿道の街並み形成を誘導するために、沿道住民の参加のもと、まちづくりルールを検討する。 ○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向かって確実な成果を挙げるために、行政と地元まちづくり組織が協働して、毎年事業成果ついての評価や事業の進め方の改善等をおこなうためのモニタリングを実施する。その結果については随時、住民に情報公開する。 ○長善館史蹟保存会 地元有志の間に私塾長善館の業績を長く後世に伝えるため址碑建立の気運が高まり、昭和34年長善館址碑建設世話人会が結成される。址碑完成後、新たに長善館史蹟保存会を起し、館の調査・研究・保護・顕彰に努める活動をする。その後昭和62年、会は解散することになるが、当時の調査を行う上で、会員だった皆さんは重要な存在となっている。 ○吉田町まちなかいきいき委員会及びまちづくり協議会 平成14年の吉田町商業集積グランドデザインの策定により、その理念を達成するため旧吉田町及び旧吉田町商工会からの委託を受け、平成15年当委員会が設置される。委員は、町内に在住する者20人で組織される。主な検討事項は、中心市街地活性化の推進体制の調査・研究、商業集積グランドデザインで示された提言を達成するための施策の企画・立案を行っている。また平成17年7月に吉田地区まちづくり協議会が発足し、まちづくりを推進するとともに地域自治の高揚を図ることを目的に活動を行っている。	

交付対象事業費	1,404	交付限度額	609.9	国費率	0.434
---------	-------	-------	-------	-----	-------

基幹事業

...A

...B

合計(A+B)	1,404
---------	-------

吉田地区(新潟県燕市) 整備方針概要図

